

「柁城小学校の加治木くも合戦伝承活動の取組」

1 学校名

始良市立柁城小学校

2 学年・人数

全学年・443人

3 日時・場所

- (1) 「柁城ふるさと学習」におけるくも合戦保存会の講話・実演の日時・場所
柁城小学校体育館（くも合戦が行われる6月の第2土曜授業）
- (2) 第3学年の「くも合戦」体験活動の日時・場所
柁城小学校体育館（6月）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

- (1) 名称
加治木くも合戦（かじきくもかっせん）
- (2) 由来
平成31年に没後400年を迎える島津家17代当主であった島津義弘公が文禄・慶長の役（1592年～1598年）に参戦していた際、その陣中で兵士たちを奮い立たせるために、雌のコガネグモを集めて戦わせたことが始まりと言われている。
現在は、平成3年8月に設立された「くも合戦保存会」の主催で、毎年6月第3日曜日に始良市加治木町で開催され、国内外から取材が訪れるほど始良市の大きな伝統行事になっている。今年度は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟により「プロジェクト未来遺産2018」に登録された。
- (3) 構成等
「くも合戦」は、3つの部門で構成されている。
 - ア 優良ぐもの部
くもの色艶、姿形の美しさ、八頭身のスタイル等を、それぞれ裱姿の方々が審査と審判を行う。
 - イ 合戦の部
一人3匹のくも(雌)を用意し、本大会に臨むことができる。長さ60cmの「ヒモシ」と呼ばれる横棒の両端にそれぞれくもを置き、最大3回戦うことができる。3匹の勝ち数の合計で順位が決まる。
 - ウ 王将戦の部
合戦の部で3連勝したくもだけが出場することができる。トーナメント方式で、その年のチャンピオンぐもを決める。

5 保存会や地域との連携の具体

「柁城ふるさと学習」では、「加治木くも合戦保存会」会長を講師として招聘し、全学年の児童に加治木くも合戦の歴史や伝統・ルール、くもの生態等について話をいただいている。

「くも合戦体験学習」は、第3学年の郷土教育として、保存会の方々を講師として招聘し、実際に授業の中で、「くも合戦」の体験をさせていただいている。

本番の「くも合戦」に参加する児童は、地域の方々に案内していただき、大隅半島まで出向き、くもを捕獲している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

「くも合戦」を始められた島津義弘公没後400年を来年に控え、特に力を入れて全児童・全職員に「くも合戦」にふれるような取組を行ってきた。毎年学ぶために教育課程を工夫することに加え、本校の伝統行事「柁城カルタ大会」の読み札や、「くも合戦絵画コンクール」の作品展示にも取り組んできた。新1年生や転入学児童にも、「くも合戦」の歴史と伝統を受け継ぐよい機会になっている。

第3学年には、総合的な学習の時間に「くも合戦」の体験学習を位置付け、毎年、体育館内で実際に体験させることで、本番への興味・関心を高めさせるようにしている。

さらに、「くも合戦」当日に表彰式が行われる「くも合戦書道コンクール」や「絵画コンクール」にも全学年で取り組み、本年度も、数多くの児童が入賞し、「くも合戦」当日に表彰された。

7 取組の様子

－「柁城ふるさと学習」（全学年）や「くも合戦体験」（第3学年）の様子から－



講師の皆さんの説明



くもの実験の観察



くもの巣の仕組みに関する説明



実際の合戦の見学

8 参加者児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【参加した児童の感想】

- くも合戦のルールやくもの様子を詳しく知ることができて、くも合戦本番がますます楽しみになりました。自分もくもを捕まえて、挑戦してみたいです。
- 雌ぐもの方が大きいことや、雄は食べられてしまうことを知り、自然の掟にびっくりしました。

【教職員の感想・意見】

- ユネスコに登録されたこの「くも合戦」について、これからも本校の子どもたちにしっかり教え伝えていきたいと思いました。
- 平成30年は明治維新150周年、平成31年は島津義弘公没後400年を迎える。この記念すべき時に、大切に受け継がれてきた「くも合戦」のことを、子どもたち、保護者、地域の方々とともに守っていきたいと思いました。